第２回　日沿道新潟県境区間ＩＣ周辺土地利用基本計画策定検討委員会

会議録

○日　　時 平成２７年１月２１日（水）午後２時００分～午後４時００分

○会　　場 鶴岡市役所温海庁舎 ６階　大会議室

○出席委員 伊藤彦市委員長、折田仁典副委員長、遠田茂昌委員、佐藤丈典委員、佐藤佐次右衛門委員、五十嵐正信委員、佐藤美代子委員、佐藤直司委員、加藤淳一委員、高橋広司委員、武田研二委員

○ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ 今野　悟氏、佐々木泰次氏

○市側出席者 建設部長、温海庁舎支所長、建設部参事、都市計画課長、地域振興課長、農山漁村振興課長、観光物産課主幹、温海庁舎産業課長、温海庁舎産業課主幹、温海建設事務室長、都市計画課長補佐、都市計画課専門員、都市計画課専門員、温海建設事務室長補佐、温海建設事務室主任、温海建設事務室主任

○公開非公開 公開

○傍聴者 ０名

○次　第

　１．開　会

　２．あいさつ

　３．報告

　　１）委員会及びワークショップの実施概要について

　４．協議

　　１）ＩＣ周辺土地利用基本計画（案）について

　　　①休憩施設等の機能について

　　　②施設規模について

　　２）検討スケジュールの見直しについて

５．その他

　６．閉　会

# １．開　会

　・佐藤参事による開会宣言

# ２．あいさつ

　・五十嵐建設部長によるあいさつ

　・13名の委員のうち、11名の委員が出席。

# ３．報告

# １）委員会及びワークショップの実施概要について

〈事務局による資料説明〉

【委員長】

・第１回委員会での主な意見が整理されているが、意見のニュアンスが違わないか確認いただきたい。

・ワークショップでの意見の中で、期待することが不安なことという、裏返しの意見もある。例えば、観光客の増加に期待する意見もあれば、素通りで観光客が減少するのではないかと不安に感じる意見がある。また、地場産品の販売を期待しながらも、魅力ある特産品を販売できるのか不安がある。交流人口の増加に期待する一方で、それに伴う交通量増加による危険性を心配する意見もある。不安なことをすべて解消すれば、地域の活性化につながるという印象を受けた。

# ４．議題

# １）ＩＣ周辺土地利用基本計画（案）について

# ①休憩施設等の機能について

〈事務局による資料説明〉

【委員】

・資料-3のP-9、施設機能の地域連携機能に「高速バス停」を整備するとあるが、高速バスをこのルートに運行させる計画は決まってなく、白紙の状態であり、計画に沿えない形も考えられる。

・鼠ヶ関方面の路線バスは、マックスバリューまで行っているが、高速バスは未定である。そのため、「高速バス停」の文言だけでも外していただきたい。

【事務局】

・「高速バス停…」の表現について、運行することが決まっていないことも想定しているが、第１回委員会等での意見にもあったことから計画に盛り込んだものである。高速バスや路線バスのバス停の整備、ＡＴＭの設置など、地域住民等の生活利便性を高めるための機能の強化の一例を表現していると読み取っていただければと考えている。

・当然、バス事業者との調整が必須であると考えているので、整備しない可能性もあるとの意味を含んでいる。

【委員】

・資料-3のP-7に「民間の採算性検討等により導入する施設機能については、変更の可能性がある」とあるが、民間は第３セクターも踏まえているのか、選定基準、要件対象の業種は具体的に考えているか。もし、変更の可能性があるとすれば、想定される整備はあるか教えていただきたい。

【事務局】

・計画で基本的なメニューを示したが、今後、施設規模を踏まえて採算性の検討を行い、整備する具体的な内容を検討する予定である。そのため、現段階では想定している整備内容までは持ち合わせていない。

【委員】

・鼠ヶ関周辺の施設はいろいろあるが、道の駅「あつみ」しゃりんを残しつつ、新しい休憩施設を整備するのか？それとも、道の駅「あつみ」しゃりんを移転して、道の駅を整備するのか、どのような考えであるか。

【事務局】

・前回の委員会でも意見があった。この点については問題意識を持っているが、庁舎内でもまだ結論は出ていない。もう少し時間をいただきたい。

【委員】

・道の駅「あつみ」しゃりんを残すかは、検討委員会で協議する項目か。

【事務局】

・道の駅に関する制度上の取扱いについても検討する必要があり、市として方針を決めることを考えている。検討委員会の中で議論することではないと考えている。

【委員】

・資料-3のP-9に「電気自動車の充電施設の整備」とあるが、充電するのに相当時間がかかるのでは。これから整備する箇所に、そのような施設が適しているのか。

・資料-3のP-7の鼠ヶ関ＩＣ（仮称）周辺の機能として、「一般道からも利用可能な施設整備」とあるが、この書き方から考えると、高速道路の利用者も利用することは可能なのか。そうであれば、上り線、下り線の利用者も利用できるようにしていただきたい。

【事務局】

・電気自動車の充電施設については、最近の傾向として休憩施設にはかなり普及していること、委員会でも意見があったことから、計画に盛り込んだ。

・「一般道からも利用可能な施設整備」の質問に対しては、高速道路利用者が使いやすことを第１条件とし、鼠ヶ関の地形条件も踏まえて考えていきたい。上下線から利用可能な施設整備についても地形の状況や予算など総合的に判断して考えていきたい。

【委員】

・それでは、一度ＩＣから出て入る施設（近傍型）なのか、直結型かはこれから検討すると考えて良いか。

【事務局】

・その通りである。

【委員】

・短時間で電気自動車を充電できるものなのか。

【委員】

・短時間で充電可能な充電施設もある。それであれば、30分程度で充電は可能である。ただし、相当な容量を持った高圧受電の電力施設でないと厳しい。例えば、市内でも市役所に１台整備されているが、その他の施設となると高圧充電機は整備されていない。

【委員】

・今はあれも欲しい、これも欲しいと膨らましている段階と判断している。初期投資は補助金が出るかもしれないが、ランニングストを考えると、計画段階で施設を膨らませると大変である。

・本当に必要な身軽にする視点も必要ではないかと考えている。

【委員長】

・前回の委員会でも意見は出ていたが、ランニングコストの検討はお願いしたい。

【委員】

・資料-3のP-7に「キャンピングカー駐車場の整備」とあるが、この施設でキャンプが可能と捉えられる恐れがある。キャンピングカーの駐車場整備となると、1つの事業として考える必要がある。

・道の駅あつみ「しゃりん」でもキャンピングカーが停まることはあるが、これが何日も停車すると管理の仕方が変わってくる。また、鼠ヶ関地域の中にもキャンプ場は整備されている。

・鼠ヶ関ＩＣ、あつみＩＣは車の乗り降りが盛んにおこなわれ、地元が活性化するという目的もある。そのため、ＩＣで降りて、あつみ地域で過ごしてもらえるように、キャンピングカー、キャンプ場の扱いは考えた方が良い。

・また、資料-3のP-9に「常設型ヘリポートの整備」とあるが、区画の中に本当に整備が必要か。また、ロケーションの場として、芝生広場や遊歩道の整備とあるが、このような施設を整備することで、駐車場の面積が減少したり、施設の規模が減ったりするのはもったいない。

・ヘリポート整備においては、鼠ヶ関ＩＣ近くに空いた土地もある。すべての施設を集約させるのではなく、コンパクトな考え方も必要ではないかと思っている。

【事務局】

・キャンピングカーの駐車場については、周辺にキャンプ場があるとすれば、そちらに誘客して全体として賑わせることが重要である。この表現は、物資輸送車も含めて、前回の委員会やワークショップで出たキーワードを計画に盛り込ませていただいたが、もう一度考えさせていただきたい。

・防災機能や芝生広場など、何でも施設を入れ込んでスペースが狭くなり、本来の施設が整備できなくなることは本末転倒である。必要な機能が最小限どれだけなのか精査することは、採算性を検討するためにも必要であり、防災やその他の機能などの配置を総合的に検討していくこととしたい。

【委員長】

・施設を盛り込んで１点に集中させると、誰もその施設から出てこない恐れがあり、鼠ヶ関の街なかへの誘導ができずに、結果的に通過点になってしまう。

・ＩＣから国道7号に降ろすことを考えた場合、国道7号から鼠ヶ関集落に入る道路は、ＪＲの関係で迂回しなければならない現状であるので、そのようなことに予算を使うよりも、踏切整備など、直線で海岸に出られるようなアクセス道の整備に活用した方が、地域の活性化、地元商店のためには良いと思っている。

・周辺にはマックスバリューなどが立地していることから、ＩＣ周辺にすべての機能を整備してしまうと、鼠ヶ関の街なかが衰退してしまう恐れがある。

・防災機能については、長期的な避難を想定する二次避難所までは必要ないと思う。このスペースに二次避難所を設けた場合、商業施設、産業団体との関係でトラブルが起きて、ここの機能がすべて死んでしまう恐れがある。二次避難所の整備については委員会で考える以前に、必要ないと思っている。

【委員】

・資料-3のP-7の施設機能に「外国人旅行者の増加に対応した環境整備」とあるが、鼠ヶ関ＩＣ（仮称）が完成する頃には、今よりもっと外国人旅行者が増えていることが想定される。

・環境整備はトイレだけではなく、情報発信でも必要となる。多言語化の問題は外国人受入には重要であり、情報発信も多言語化対応を念頭に置いて進めていただきたい。

・庄内地域に外国人の旅行者が入ることで、地域の経済が潤うことが観光の面では理想的であることから、検討いただきたい。

【事務局】

・外国人対応については、最近の動向としてとても重要な事項であると認識しており、情報発信機能についても無料公衆無線LANの整備と兼ねあわせるなどして、外国人対応を行うことを表記するようにする。

【委員】

・駐車場の整備の中で、キャンピングカーの利用者の扱いについて、他に代替なものがあれば、そちらで対応した方が良い。滞在型の駐車場整備はやめた方が良い。

・インフォメーション機能は、鼠ヶ関は東北、山形県、鶴岡市の玄関口であるとともに、新潟県に対する北の玄関口であることは無視できない。秋田県側からの利用客などが施設に寄って、情報を受け取ることが期待されることから、単に隣県の情報提供という表現だけではなく、新潟県の観光情報を積極的に発信すると、強調してもよいのでは。

・地域連携における産直や飲食販売等の施設の関係について、出店という言葉からすると、設置者とテナントを入れ込むことが考えられるが、施設機能を検討する場合は、誰が施設を整備し、誰が運営するのかをある程度明確にするべきである。例えば、防災機能については行政が管理運営する施設と位置づけるなど。そうでないと、あれば何でもよいのではという混乱を招いてしまう。

・加えて、この施設が今後順調に運営された場合、その二次的な効果をどう地域へ波及させるか、その部分の伸びしろについて、ＩＣを活用した産業振興がなかなか見えてこない。成功例をどのように発展させていくかについても考慮すべきである。

【事務局】

・駐車場の混在型が招く問題の意見をいただいたが、駐車場の整備の内容については、再考させていただきたい。本当に必要なものは何かを地域にある周辺の施設との兼ね合いについても考慮し、総合的に決めさせていただきたい。

・東北の玄関口であるとともに、新潟県への玄関口であることは理解している。周辺施設と連携して、お互いの情報を出し合うなどの対応を検討していきたい。

・また、二次的な波及効果についてはそこまでの検討にはいたっていない状況である。

【事務局】

・誰が施設を整備し、誰が運営するのかなど、不明確な部分が残されていることから、冒頭のあいさつでも説明したが、スケジュールを延ばさせていただいて、検討をさらに加えていきたいのでご理解をいただきたい。

・二次的な効果は鼠ヶ関周辺に限ったことではなく、日沿道の全体、市全体を考えて検討していきたい。

【委員】

・二次的効果とは、施設の周辺のことであり、この施設整備によって、隣に民間レベルの観光施設が出来る可能性もあるのでは、という考えである。

【委員長】

・産直施設などは誰が設置・運営するのか。

【事務局】

・運営者はまだ固まってはいない。但し、この検討委員会で運営者を検討するものではないと考えている。それらの検討も含め、検討スケジュールを延期させていただきたく考えている。

【委員】

・ユニバーサルデザインの多機能型トイレの意味を教えていただきたい。電気自動車の充電施設として、ランニングコストは別として、電気自動車と燃料電池車の利用が増えるのであれば、それに対応していくものもよいと思う。他の施設に無い整備があれば、このような車を利用している人の利用が伸びるのでは。

【事務局】

・ユニバーサルデザインとは、誰にでもやさしい、誰にでも使いやすいということである。ハンデキャップ、妊婦、小さいお子さんでも使いやすい機能を持ったトイレである。昔はバリアフリーという表現から、誰にでも優しいというユニバーサルデザインという表現に変わっている。

・電気自動車に代わる他のエネルギーも開発されているので、時代の流れに沿う形で整備したいと考えている。

【委員】

・ワークショップの中で、道の駅「むなかた」を参考にする意見があった。九州の道の駅であり、２つの漁協や商工会、観光協会の出資で会社を立ち上げ、漁業組合が直接売り場に魚介類を並べて販売するなど、成功している道の駅である。

・具体的な話にはなるが、運営方法の情報収集について、誰がいつ実施する予定か。

【事務局】

・市の担当者としても、できるだけ色んな事例を収集して成功事例を勉強していきたい。運営方法を考えるタイミングで検討していきたい。

【委員】

・計画策定の手順をアドバイスしたい。今の段階はメニュー出しを行っている段階である。次の段階として、技術的、財政的に実現可能かをチェックし、そして、施設の機能を取りまとめ計画を策定する流れである。

・先ほど、キャンピングカーの駐車場の意見があったが、我々で東北地方の道の駅の駅長にアンケートを取ったことがある。道の駅の休憩に関する諸問題として、「駐車場に寝泊まりされるのが一番困る」という結果が出ている。特に、道の駅の休憩施設で寝泊まりし、トイレで歯磨きをする、トイレットペーパーが紛失することや、水や電気代も発生する。その経費を誰が負担するかを考えると、道の駅で利益を捻出しなければならない。そのような観点で1つ1つチェックを掛ける必要がある。

　・アンケート調査は、1つは道の駅の駅長がどのようなことで困っているかを聞いたものである。その他に道の駅の機能にどのようなものを整備したかを確認した。もう1つは、道の駅の地域への社会貢献の内容について確認したものである。

　・この調査結果は、道の駅の駅長会議でチェックをかけ、妥当性がある結果として確認いただいている。

　・アンケート結果の一部を紹介すると、道の駅で整備されている施設として、レストランや直売コーナーは9割以上整備されている。中にはコンビニなども併設して整備されている。次に、周辺にある施設の問では、温泉や宿泊施設が近くにあるなど、うまく連携した道の駅も整備されている。

　・地域への貢献度については、地域の特産品販売が地域に貢献しているという回答が得られている。また、特産品のＰＲなどである。加えて、地域のイメージがあがったという意見もあった。

　・今後整備する意見として、今後多くの機能を整備したいという意見があった。みなさんで知恵を出し合い、金太郎アメのような道の駅にならないよう、特徴ある道の駅の整備をお願いしたい。

【委員】

・道の駅で地域の特産品が販売されることを踏まえ、鼠ヶ関地域はイカの一夜干しが有名など、２分程度の観光ＰＲのビデオを流して、関心のある利用者が、鼠ヶ関地域、あつみ地域までタクシーで観光地を巡回するようなシステムが出来ればおもしろいのではないか。

・タクシーで観光している間は、ドライバーも休むことができる。また、タクシー会社も利用することができる。

・道の駅「あつみ」しゃりんでは、観光ヘリコプターを飛ばしている期間がある。1回3分で4,000円と高いが、そのような利用客がいることも考えれば、タクシーで観光するプランも成り立つのではないかと思われる。

【アドバイザー】

・現在、道の駅は制度発足から20年以上たっており、全国で1,000箇所以上整備されている。量的には十分整備されている認識であり、国土交通省では、今後第2ステージとして道の駅の質を高めていく必要があると考えている。

・道の駅のタイプは、「道の駅に外から来て地域を元気にするタイプ」と、「地元の方の交流の場のタイプ」が考えられ、ミックスする方法も考えられる。今後はこれらのタイプに即した施策を考えている。

・道の駅の3つの機能に防災機能を加え、委員会やワークショップの意見を踏まえ、中身的なバージョンアップをしているものが今の素案と考えている。

・委員会での意見もあったが、大きなフレームを鶴岡市が提示することが大切である。無料の高速道路に整備する休憩施設として、ＩＣ直結型にするか、近傍型にするか。新たに付加する防災機能を盛り込むか否かの考え方を示すのが大切である。

・道の駅の３つの機能はだいたい同じ整備であり、金太郎アメのような道の駅になる可能性があるので、どのようなソフト施策を展開するかなど、仕掛けの企画力が問われる。

・似たような道の駅の整備では、トイレに行って、ご飯を食べるなど、ただ立ち寄るだけの利用になる可能性がある。色んな情報発信や近傍のキャンプ場などをＰＲすることなどで、道の駅を目指して観光客が訪れることを望んでいる。

・そのような仕掛けを皆さんで考えていく企画力が必要である。また、常に仕掛けていくことが重要だと思っており、非常に難しいがやりがいがあることだと思う。

・また、日沿道の鼠ヶ関ＩＣは南北ともに山、西側は海など、非常に狭い中での土地利用の制約条件があるので、そのようなことを踏まえて、どのような形状にするかを、提示することが必要である。

【アドバイザー】

・キャンピングカーの話がでているが、庄内空港近くに有料のオートキャンプ場が整備されている。炊事場やテント設置のスペースが整備されている。そのように、道の駅とは違ったところに整備しないと、道の駅の基本である無料駐車場、24時間トイレの機能が損なわれる可能性がある。

・今後機能を絞りこむ必要があるが、最低限の機能は必要としたうえで、通行する利用者だけでなく、地域の方が望む視点も検討する要素として加える必要がある。加えて、整備した方が良い機能を費用対効果で検討すると思うが、期間限定で変更可能なチャレンジ的なブースがあれば面白いと思う。

【委員長】

・一通り皆さんから意見、アドバイスをいただいた。特に意見・質問が無ければ、次の議題に移る。

# ②施設規模について

〈事務局による資料説明〉

【委員長】

・施設規模について説明いただいたが、先ほどの休憩施設の機能も明確になっていない、道路の法線や山形県の津波浸水域の見直しにより、土地の条件も変わるということもあり、現段階では計画交通量を用い、マニュアルに沿って最低限必要となる規模を算出した場合の参考値として理解している。

【委員】

・道の駅「あつみ」しゃりんの区画の広さや駐車場の台数について説明する。大型車は14台、小型車は101台である。この前37台増設している。

・計画の素案では駐車場は88台で足りると算出されているが心配である。稼げるときに稼がなければならない。余裕をもって駐車スペースを確保した方が良い。

【委員長】

・道の駅「あつみ」しゃりんの規模について説明いただいた。それらを踏まえて検討していただきたい。

【委員】

・資料-3のP-17の「農作物地産地消等消費調査」の直売施設の売り場面積の数値を活用しているが、第3セクターの東北平均の施設規模でまとめていただいている。第3セクターは直営で運営しているのか、専門業者をテナントとして入れているのか、どちらか。

【事務局】

・本調査結果は、農林水産省が実施する農産物地産地消等実態調査の結果である。その結果には、第3セクターでの経営の面積平均は整理されているが、運営が直営なのか、テナントなのかは不明である。

【委員】

・この数値は東北の平均値であり、そのまま使うのは乱暴な気がする。

・運営手法で第3セクターとなった場合、第3セクター自らが運営するのか、テナントとして運営するのかで大きさは異なる。また、近隣の実情を調査した値を用いるなど、根拠のある数値を採用するべきである。

# ２）検討スケジュールの見直しについて

〈事務局による資料説明〉

【委員長】

・第３回目は今年度実施しないことでよいか。第３回目の委員会は、山形県の津波浸水域の被害想定の結果が出てから、委員会を実施する予定か？

【事務局】

・津波浸水域の被害想定の結果は、平成28年度末の公表予定であるため、そこまで委員会実施は延ばせない。

・防災機能を含めた高さや機能は検討中になるが、次回委員会では示せる部分まで示すようにしたい。

【委員長】

・スケジュールの見直しは理解した。ただし、議論する中で、あいまいな部分が多く、委員の皆さんは欲求不満で帰られている。この機能は必要だ、この機能は不要という議論はいつの段階で出来るのか。

・施設の運営管理や、ソフト面で商業施設の活用を図るために、管理者をスタートラインに立たせる仕掛けをどうするのか。具体的な議論を望んでいるのでは。

【委員】

・検討委員会は、色んな意見を出して「決める場」なのか、委員会では「意見を聞く場」で、決定権は他にあるのかどちらなのかわからない。

・道の駅「あつみ」しゃりんの２本立てとする、道の駅「あつみ」しゃりんのを無くして１本でいくというのは、この方針を受けて検討する考えでよいか。

【事務局】

・道の駅「あつみ」しゃりんの扱いについては、この委員会に諮って決めていくものでは無い。ただし、みなさんの意見を踏まえ、あり方を検討していきたい。

・あいまいな部分がまだあることは、ご指摘の通りである。3.4km間に2つの道の駅を整備してよいのかという制度的な問題もあるし、高速道路直結型にするかの結論についてもまとまっていない。

・計画案をお示ししながら意見をいただきたいと考えていることから、平成27年度も引き続き検討を進めていきたい。

【委員長】

・駐車スペース、休憩スペースと違って、商業スペースはソフト的な施策と並行して考えていかないと決まらないのではと考えられる。

・特に商業スペースについては、誰が管理、運営するのか、テナントにするのか否か手法によって面積は異なってくる。面積を決めてからやりなさいとなると、いざ出店を募っても入らなくなる恐れがある。進め方をよく考えるべきである。

【委員】

・全体の土地利用として進めるとなるが、このままでは第一期計画で造成した土地をすべて活用しなければならなくなる。当面必要として整備するもの、今後二次的に整備するものなど、段階を踏んで検討してもよいのでは。

・地域の活性化として活用するものについては、土地の買収と造成を行い、残りについては計画の区域を今後の事業進展を踏まえて整備することでよいのでは。

・すべて第一期計画の中で整備せず、民間での土地活用の伸び代を考えた方がよい。当初想定したもの以上の成果が出れば、駐車場を増設するなどの計画変更もできる。

・今の時点ですべてのものを作り上げるのは無理があるのでは。柔軟な計画があってもよいのでは。

【委員長】

・色んな意見を出されたので検討していただきたい。

【委員】

・あまりにも漠然として掴み兼ねる。捉えどころがない。もう少し具体的な方向性があれば意見も述べられると思う。

【委員長】

・予定の議事を終了した。スムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

終了